

技術委員会 2020年度活動報告

2021年6月7日(月)
紙製容器包装リサイクル推進協議会

2020年度 技術委員会の主な活動

紙製容器包装の排出量・回収量に係わる調査

1. 組成分析・市区ヒアリング調査

1) 組成分析調査

⇒ 新型コロナウイルス感染症拡大の懸念から中止

2) ヒアリング; 海老名市、豊島区、葛飾区

2. マテリアルフロー(2019年度実績)の 作成

紙製容器包装の回収率の出し方

$$\text{紙製容器包装の回収率} = \frac{\text{紙製容器包装の回収量(B)}}{\text{全国の家庭から排出される紙製容器包装の総量(A)}}$$

A 全国の家庭から排出される

紙製容器包装の総量 : モニター調査

B 紙製容器包装の回収量 = 各分類の回収量(D)

× 各分類における紙製容器包装の構成比(C)

(各分類:「紙製容器包装」「雑がみ」「雑誌・雑がみ」「古紙」)

C 各回収分類における紙製容器包装の

構成比調査 : 組成分析調査

D 各分類の回収量:アンケート調査(総務委員会)

各分類中の紙製容器包装の構成比

- 「雑誌・雑がみ」分類と「雑がみ」分類中の構成比は下表の数値を使用
- 各分類における紙製容器包装の構成比は数ヶ所の組成分析調査結果の平均値

| | 項目 | 紙製容器包装 構成比平均値 | 構成比適応年度 | 調査自治体 | 調査時期 |
|------|--------|------------------|---------|---------------------|-------------|
| 行政収集 | 雑誌・雑がみ | 12.9% (9市平均) | 2017年度 | 9市(東京、千葉、埼玉、四国九州) | 2010～2015年度 |
| | 雑がみ | 40.4% (5市平均) | 2017年度 | 5市(神奈川、静岡、北海道) | 2006～2014年度 |
| 集団回収 | 雑誌・雑がみ | 10.5% (5市平均) | 2010年度 | 5市(東京、神奈川、千葉、埼玉、宮城) | 2009～2010年度 |
| | 雑がみ | 42.8% (5市平均) | 2010年度 | 5市(神奈川、千葉、山形、静岡) | 2008～2010年度 |

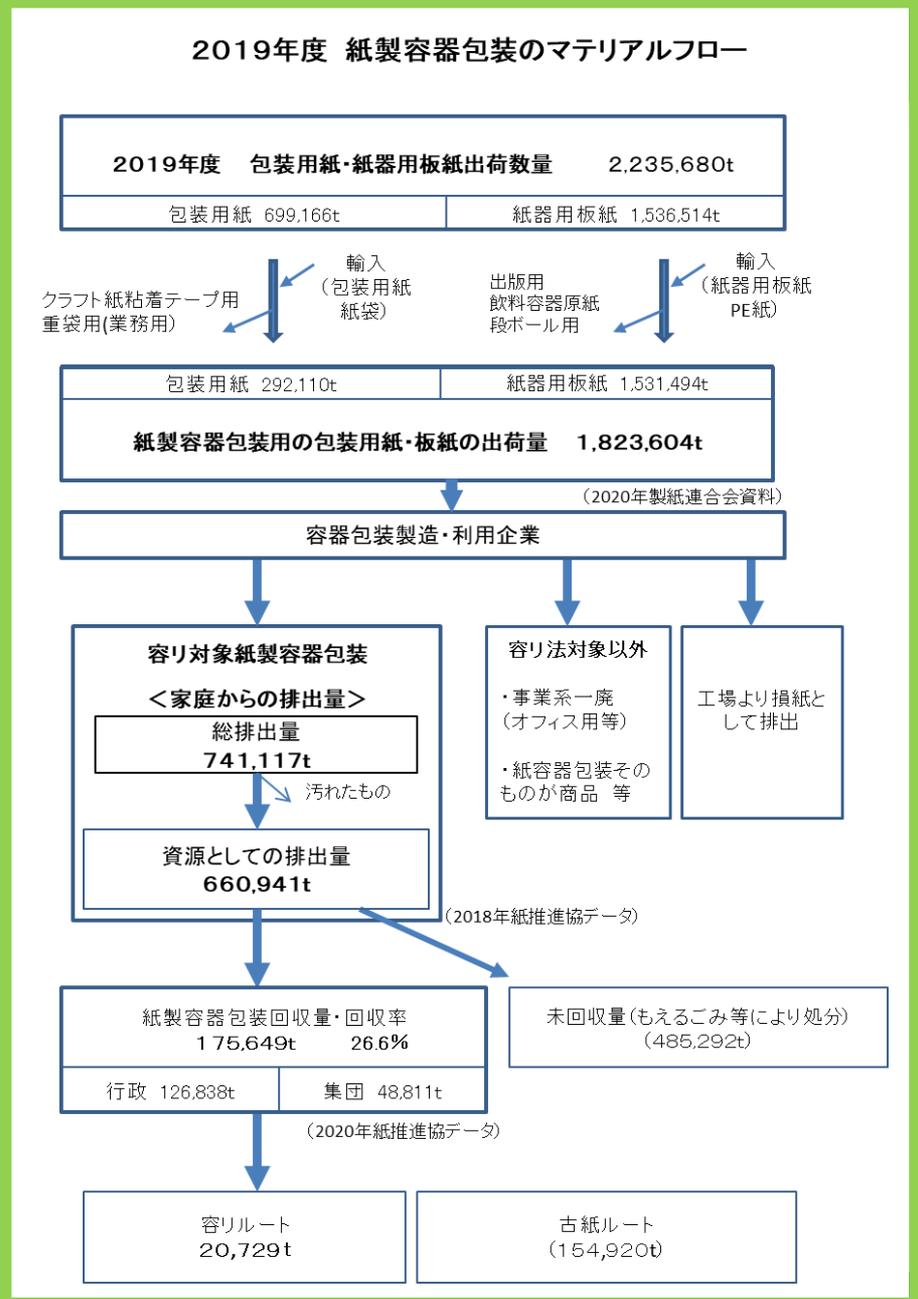
市区ヒアリング調査

調査結果

| | | 海老名市（神奈川県） | 豊島区（東京都） | 葛飾区（東京都） |
|-------------------|---------------------|--|--|--|
| 回収方式 | | 古紙ルート | 古紙ルート | 古紙ルート |
| 分類名 | | 「ミックスペーパー」 | 「厚紙の箱」、「包装紙」 | 「雑紙」 |
| 混合回収量 | | 行政 1,729 t | 行政 76 t（紙製容器包装） 集団 566 t | 行政 3,312 t 集団 1,389 t |
| 分別収集 | 分別対象 | 雑がみ | 紙製容器包装、雑がみ | 雑誌・雑がみ |
| | 対象外 | 防水加工、緩衝材貼合、アルミ箔貼合、シール類、臭い付着、汚れ付着 | シュレッダーごみ、ラミネート加工、感熱紙、卵パック等、臭い付着、汚れ付着 | 防水加工、カーボン紙、感熱紙、圧着ハガキ、アルミ付き、シュレッダー紙、臭い付着、汚れ付着 |
| 排出方法 | | 識別マークで分けせず、「ミックスペーパー」として紐で束ねるか紙袋に入れて出す。 | 識別マークで分けせず、厚紙の箱類は紐で束ねるか紙袋に入れて出す。その他雑がみは、コピー用紙・ダイレクトメールなどと一緒に束ねるか紙袋で出す。 | 識別マークで分けせず、ビニールを外して折りたたんで束ねるか紙袋に入れて出す。 |
| 識別マーク関連 意見交換・他 | 紙製容器包装の回収の取組 | 古紙業者が直接収集しており、2018年9月より戸別収集へ移行した。 | 古紙業者が直接収集しており、平ボディ車で回収している（段ボールはパッカー車）。 〔一般7,000カ所、個別15,000カ所、池袋周辺繁華街500カ所〕 | 古紙業者数社が平ボディ車で回収している。処理業者は一社一括にて管理している。 |
| | 区別表示設定に対する意見その他の課題等 | 2018年9月より家庭ごみ一部有料化（「燃やせるゴミ」「燃やせないゴミ」とした結果、「燃やせるゴミ」の総量は減少しており、その分回収量が増加したと思われる。 | 処理業者からの提案で、容リルートで200tで申し込みをした。 集団回収は縮小の傾向。 繁華街回収を3年前より開始しており、区がSDGs未来都市として選定された。 | 従来より回収方法・ルートは変えておらず、課題・トラブル等は認められない。 人口は微増で外国人比率は多くはないが、分別方法に関しては、英語・韓国語、中国語版を準備している。 |

マテリアルフローの作成

紙製容器包装の排出量と回収量を把握し、その他のデータと組み合わせて、紙製容器包装のマテリアルフロー(2019年度実績)を作成。



技術委員会 2020年度活動報告

完